



野間易通 著
『「在日特権」の虚構
——ネット空間が生み出した
ヘイト・スピーチ』
河出書房新社 刊 (2013年11月)



神原 元 著
『ヘイト・スピーチに抗
する人びと』
新日本出版社 刊 (2014年12月)



有田芳生 著
『ヘイトスピーチとたたかう！
——日本版排外主義批判』
岩波書店 刊 (2013年9月)



師岡 康子 著
『ヘイト・スピーチ
とは何か』
岩波新書 (2013年12月)



前田朗 編
『なぜ、いまヘイト・スピー
チなのか
——差別、暴力、脅迫、迫害』
三一書房 刊 (2013年10月)

カウンター

フリー編集者の野間易通さんは、東京・新大久保などでの在特会らによる差別街宣や排外主義デモに抗議する直接行動「カウンター」を呼びかけつつ、ネット上に氾濫する「在日特権」デマなど、ヘイトスピーチへの対抗活動を続けられている。

1月19日発売！



李信恵 (リ・シネ) 著
『#鶴橋安寧 (つるはしアンニョン)
——アンチ・ヘイト・クロニクル』

書店のみなさま。

平素よりお世話になり誠にありがとうございます。
小社新刊の李信恵著『#鶴橋安寧—アンチ・ヘイト・クロニクル』が1月19日に発売となります。

在日コリアン2.5世の女性である著者は、差別煽動街宣や排外主義デモの現場、またはネット上で、「在特会」らから自身もヘイトスピーチを浴びせられながらも、これらに対峙してきました。昨年8月には、在特会前会長・桜井誠氏らに対し、損害賠償を求め、裁判を始めてもいます。

ご存知とは思いますが、現状に対し、カウンターによる直接抗議が続けられていますが、さらに、規制する法律や条例の必要性が訴えられるなど、ヘイトスピーチに反対する様々な動きが出ています。

本書の発売に際し、こうした状況への周知・関心を高めていただくために、是非ここに紹介する関連書籍等と共に展開いただき、「反<ヘイト・スピーチ>本コーナー」の設置をご検討いただければと存じます。

現在も惨い排外・差別状況が、街中やネット上で続いています。
本書が状況変革への一助となれば幸いです。 影書房 (2015. 1. 10)

まだまだあります。
反<ヘイト・スピーチ>本。

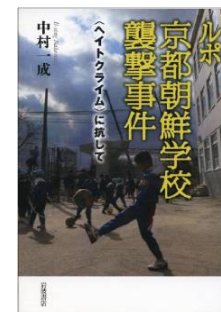
ヘイトスピーチ規制法 人種差別撤廃基本法

師岡康子弁護士、前田朗教授らが進めてきたヘイトスピーチを規制する法律等に関する研究や、国連からの勧告を踏まえ、有田芳生参議院議員が中心となり、現在、法制化の動きが進められている。

京都朝鮮学校 襲撃事件 最高裁判決

2009年12月4日、在特会ら十数名は「朝鮮学校を日本から叩き出せ」、「朝鮮半島に帰れ」などと叫び、子ども達の学ぶ学校の前で街宣活動を行った。この事件に対し最高裁は、2014年12月9日、京都朝鮮学校に対する在特会らの行為を人種差別と認め、在特会側に約1200万円の賠償を命じる等の判決を下した。

中村 一成 著
『ルポ 京都朝鮮学校
襲撃事件
——<ヘイトクライム>に
抗して』
岩波書店 刊 (2014年2月)



在特会/<嫌韓>本

在特会前会長・桜井誠氏は、ネット上で「在日特権」デマや、歴史否定論を拡散し、差別煽動街宣や排外主義デモなどの活動を牽引してきた。また著書もある。在特会らの活発化と前後して増加してきたいわゆる「嫌韓本」の出版者の責任を問う声が、同業である出版関係者から上がっている。

安田 浩一 著
『ネットと愛国
——在特会の「闇」を追
いかけて』
講談社 刊 (2012年4月)



ヘイトスピーチと排外主義
に加担しない出版関係者の
会 編著
『NOヘイト! 出版の製
造者責任を考える』
ころから 発売 (2014年10月)

影書房 TEL:03-5907-6755
FAX:03-5907-6756